

高齢者公益事業部

新型コロナウイルス感染症は当事業部の入居者サービス、組織運営、入居者募集、財務等に甚大な影響をもたらしている。この影響をいかに最小限にとどめるか、事業部の総力を挙げて継続的に取り組まなくてはならない。

コロナ禍で事業継続に必要なことは非常時にも揺るがない経営の安定性である。浜名湖エデンの園の建替工事は2020年4月に新1・2号館が完成し、感染症対策に細心の注意を払いながら多くの入居者をお迎えすることができたが、今後は宝塚エデンの園、松山エデンの園、油壺エデンの園の改築を控える。改築資金を確保するため、直営施設の収支改善を実行していく必要がある。空室ゼロに限りなく近づけるよう入居者募集活動を強化するとともに、直営施設の管理費、食費等の費用を試算し、価格改定等の必要性を検討する。また防災対策の強化として、台風や降雪等の自然災害に対して、発生前の準備から初動対応までを明確化し、実効性を高める。

人材の採用・育成・定着に関しては、労働力人口の減少に対応できるよう、必要な人材を地元で採用する仕組みを構築する。また、日々の気づきをそのままにせず、コミュニケーションをとりながらその気づきから計画を立て、実行し、自らの力で改善できる職員を育成する。

サービスでは、安全確保が最重要事項である。新型コロナウイルス感染症対策にとどまらず、基本を徹底し、事例から学び、想定外の事態への対応力を高めたい。標準サービス（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）をはじめとする運営の標準化は、危機管理やサービスの持続性を確保するため、継続して推進したい。コロナ禍により、入居者にも日々の生活で不自由を強いている。人と人がふれあうことの大切さを保ちながら、健康寿命延伸・自立支援促進のための新たな介護予防活動やプログラムを検討のうえ実践するとともに、新しい生活様式を意識した新たなサービスの在り方を検討する。

また、未来を築く社会的使命を果たすため、高齢者が暮らしやすく、職員が働きやすい、機能性とデザイン性に優れた住まい空間を提案できる仕組みを確保したい。見守りシステムをはじめ、新システムの構築と既存システムとの統合を推し進め、入居者にとってのサービス向上、職員にとっての働く環境の向上を図る。

2020年度は大規模な入居者募集セミナーを開催できず、WEBセミナー等の試行により、見込顧客の発掘に努めた。コロナ禍による募集活動の制限が継続したことで、新規入居者数の減少だけでなく、見込顧客数が減少している。この影響は短期的ではなく中期的なものであり、共同事業、受託事業との連携・協働をさらに強化し、募集活動の在り方を組み立て直す必要がある。直営7施設の目標数値として、入居契約件数182件、入園金合計57億円、事業部全体の当期活動増減差額3億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の実践

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
 - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
 - (ウ) 防災対策の強化

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 地元人材の採用
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (オ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2021 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	43 件	40 件	13 件	35 件	18 件	20 件	11 件	2 件	182 件
入居率	91.8%	93.1%	88.0%	96.5%	95.5%	100.0%	99.0%	96.0%	94.4%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2020年4月に1・2号館耐震対策建替工事が完了、2020年度は園にとっては記念すべき年となった。その一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴い園内活動も様々な制限を受けたが、入居者の協力と職員の努力で感染リスクを最小限に抑え込み、多くの新入居者を予定通り迎え入れることができた。職員にとっては、感染対策に加えて、現入居者の1・2号館への再引っ越し、多数の新入居者の受け入れ・フォロー、業務基幹システム（ETS2020）のサブシステム導入・定着等、勤務負担が増加し、心身ともに疲弊を余儀なくされた1年でもあった。

2021年度は、新型コロナウイルスへの対応が園運営に最も大きい影響を与える。園内への入館制限をはじめ、園内行事やクラブ活動、入居者の生活制限や自粛のお願い、重要な入居者募集活動など、範囲は広範に亘る。感染リスクを引き続き最小限に抑えながら、提供するサービスの質を維持し、コロナ禍においても園内生活を少しでも楽しくできる行事等の工夫に努め、入居者募集活動では入居率91%以上の達成を目指す。

サービス・支援体制については、今までのパーソン・センタード・ケア（PCC：その人らしさを尊重した介護・サービス）の考え方のもと、アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）の推進を図り、「入居から終末期まで切れ目のないサービス」を継続して提供する。そのためには、全課・全職員の連携をさらに深める。また、自立した入居者向けの「健康増進サービス」についても、トレーニングルームの活用等により、さらなる活性化に取り組む。

また、業務改善として、ETS2020やインカム（無線）の全職場での効果的な活用、体温測定結果等を自動入力できるしくみの導入を図る。すでに様々な分野で活用されるAI（人工頭脳）やICT（情報通信技術）の導入を積極的に検討するとともに、人材についてはパート職員の採用を強化し、「働き方改革」の推進と職員個人の負担軽減を図る。

高齢者公益事業部の方針である「より災害に強いエデンの園」については、項目の一つに「感染」を追加する。周辺施設及び地元自治会等との連携を強化し、さらに「安心・安全」な浜名湖エデンの園の実現に向けて、入居の皆様の協力も頂きながら取り組む。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) パーソン・センタード・ケア (PCC) に基づく、アドバンス・ケアプランニング (ACP) の継続的な推進と評価
 - (イ) 入居から終末期まで、切れ目なく「その人らしさの生活を支える」仕組みづくり
 - (ウ) 標準サービスの質の検証とサービスの「見える化」
 - (エ) 地域とつながる取り組みの推進
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) 自ら考え、行動できる人材の育成
 - (ウ) 業務の効率化・労働生産性向上による「働き方改革」のさらなる推進
 - (エ) AI・ICTの導入等による働きやすい職場環境の整備
 - (オ) 障がい者雇用の促進と定着への取り組み
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 入居率91%以上を維持するための入居者募集活動の推進
 - (イ) 課・係・個人のそれぞれのレベルでの役割分担と業務整理
 - (ウ) 「事業・運営計画」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) 最重要課題としての新型コロナウイルス感染防止対策への取り組み
 - (イ) コンプライアンス体制の強化
 - (ウ) 実践に即した緊急時対応訓練の実施（防災・防犯・感染予防・行方不明者対策など）
 - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備・機器の導入の検討
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり
 - (ア) グランドオープン後、入居者500名体制を見据えたサービス提供体制づくり
 - (イ) 健康で自立した入居者向けのサービス及び企画の検討
 - (ウ) 「老舗」の有料老人ホームとしての内外環境の継続的な整備
 - (エ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の検討

【数値指標】

2021年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	342戸/372戸		52戸/57戸		394戸/429戸			
入居者数/定員	421名/455名		53名/64名		474名/519名			
入居率	91.9%		91.2%		91.8%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28名	13名	42名	19名	16名	7名	5名	130名
職員数（常勤換算）	132.0名							
サービス活動収益	842,040千円							

ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2020年度は、コロナ禍の中でも徹底した感染対策と状況に応じた対策実行で、感染予防、入居者サービスの維持に努めることができた。また、サービスの標準化に加えて居宅療養薬剤管理指導や汚物除去機の導入などにより、介護サービスの質向上と職員の作業環境の改善ができた年度でもあった。

2021年度は、入居者の情報を園全体で共有するしくみ「私の軌跡」をはじめとする取組みを継続し、入居者のニーズに基づいた積極的な情報提供及び配慮と思いやりのサービス提供に取り組む、より質の高いトータルケアを提供していく。また、エデンの特徴でもある介護予防については、再構築された各種介護予防体操の稼働とともに ICT（情報通信技術）を活用した新しい介護予防ツールを検討し、より効果的かつ効率的な介護予防に取り組んでいく。職員の専門性を高める取組みについても ICT を効果的に活用する。

募集活動において新入居者の確保と定着は最重要課題であるため、小規模の集客方法の継続に加えて、見学時から現場職員と接点を持つことで、園をより身近に感じていただき、確実な入居につなげる。そして、入居後のフォローアップ体制を強化していく。

介護・福祉分野の人材不足は深刻であり、働き方改革を含めて作業環境や作業・健康管理の見直しに加え、新システムの活用による業務負担の軽減と安定したサービス提供の継続に努める。

地域に根差した公益的活動は、各種健康診断の機会の提供など自治体、近隣自治会との新たな連携を進めることとし、WAC 事業も合わせて推進していくこととする。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたりより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア) ニーズの把握と気づきに基づいたサービスの提供
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践
 - (エ) 見える化の実践による入居者との協同した園運営の実践

2. 職員満足度の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化と各課業務の再構築の取組み
- (ウ) 段階的な人材育成と個別の専門性の強化
- (エ) 働き方改革に伴う業務の効率化
- (オ) 最新介護機器の導入による業務負荷の軽減と安全な介護の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動のそれぞれの役割を果たし、期末入居率 93%以上の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制の見直し
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネの取組み

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) コロナ禍の状況に応じた感染対策の徹底と入居者ニーズに基づくサービス提供
- (イ) 災害や緊急時における事業継続計画の策定
- (ウ) 災害や感染拡大に対する入居者の自主防衛の支援
- (エ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認
- (イ) 各種健康診断の機会の提供
- (ウ) 障害者の就労機会の創出
- (エ) WAC 事業の推進

【数値指標】

2021 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	335 戸／358 戸		45 戸／50 戸		380 戸／408 戸			
入居者数／定員	383 名／501 名		46 名／50 名		429 名／551 名			
入居率	93.6%		90.0%		93.1%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	13 名	9 名	36 名	22 名	22 名	13 名	7 名	
職員数(常勤換算)	136.2 名							
サービス活動収益	934,680 千円							

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2020年度、松山エデンの園は創立40周年を迎え、様々な記念すべき行事を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止せざるをえなくなった。入居者や職員の生活においても不要不急の外出や自粛対応を継続するなどこれまでに経験したことがない対応が必要であったが、入居者に協力いただきながら、職員一丸となり、安心安全を第一に考えた園内の感染拡大防止対応を徹底する運営に努めた。

2021年度は、経営の安定と継続性を確保する為、収益改善を実践する。入居募集においては、契約数目標達成と入居率向上を目指し、感染予防対策を継続しながら新しい募集イベントを充実させ、募集活動に取り組んでいく。

入居者の皆様には、新しい生活様式を取り入れた楽しみある行事や食事提供、継続した感染予防対策や防災対策を行い、入居者が安心安全に生活いただける園内の環境づくりに努める。ケアサービスにおいては、職員のeラーニングや2020年度から導入したケアシステムなどを活用し、介護看護の質を向上させる新たな取組を実践していきたい。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは、2021年度も安心できる協力医療機関として継続した連携体制を更に整備していく。

地域住民の方々には、2020年度に中止となった地域合同防災訓練を実施し、園と地域が協力・信頼できる関係づくりと地域貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】

『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 新規契約戸数 13戸14名
 - (イ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取り組み
 - (ウ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
 - (エ) 施設会計の改善に向けた改定

- (オ) 住替えが必要とされる方への適切な対応
- (カ) 省エネ活動の継続的な取組と適切な設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 新システムを活用した運営と職員の連携強化
- (イ) 人材の採用力強化と定着への環境づくり
- (ウ) 目標参画・各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践
- (エ) eラーニングを活用した職員の育成・評価の実施
- (オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) ご入居者の幸せづくりに支援できるトータルサービスの提供
- (イ) ご入居者へ質の高いケアの実践
- (ウ) 新しい生活様式を取り入れた園内行事の実施
- (エ) 食事満足度と喫食率の向上
- (オ) 医療法人聖愛会松山ベテル病院との医療体制の連携強化

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 防災対策の強化
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 園内設備の計画的な改修

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2021 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	97 戸		28 戸		125 戸			
入居者数	112 名		28 名		140 名			
入居率	90.7 %		80.0 %		88.0 %			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	15 名	7 名	7 名	8 名	15 名	6 名	4 名	
職員数(常勤換算)	56.2 名							
サービス活動収益	287,100 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2020年度は未曾有のパンデミックと向き合い、感染防止対策に明け暮れる日々が続いた。自粛を伴う行動制限の中、感染防止対策に協力いただいた入居者と高齢者施設としての個々の職員の努力に感謝申し上げます。コロナ禍で募集活動は大幅に制限され、予算未達となったが、コロナ禍でできる活動を模索した。また、予定していた大規模修繕は実施延期となった。

さて、2021年度は、長期化するコロナ禍にあつて、継続した感染防止対策を実践し、世界的な普遍的価値観であるSDGs（持続可能な開発目標）を意識した事業展開が望まれる。サービスの高水準を維持したエデン標準サービスの具現化を図るとともに、「安心なサービス提供と質向上」「職員の育成」「安定した施設運営」を重視した取り組みを行う。「安心なサービス提供と質向上」については、更新した業務基幹システム（ETS2020）の安定稼働により業務効率を高めるとともに、蓄積データ活用によりサービス内容の可視化を図る。食事部門においては、メニューアピールを強め喫食率向上に繋げる。「職員の育成」については、地域の人材を積極的に活用するとともに、継続してEPA（経済連携協定）による海外研修生を育成していく。また、女性職員が活躍できる環境づくりと、職員個々が超過勤務削減や有給休暇取得等の働き方を意識することを強化する。「安定した施設運営」については、「空室ゼロ」を目指し入居率を向上させるとともに、附属診療所の運営改善を図る。施設整備では、コロナ禍で安全重視の計画修繕を実施していく。コロナ禍で入居者・職員共々の人間関係やコミュニケーションの希薄さを加速させない取り組みや関わりを重視して、感染対策徹底を図ったうえで、入居者・職員の安心、安全を優先した園運営をしていく。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と こちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネへの取り組み強化と地域との関わり
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) 感染対策の継続と徹底
 - (ウ) ETS2020 の安定稼働
 - (エ) コロナ禍でできる行事企画の創出
 - (オ) 食事メニューアピールの強化と「楽しくて美味しい食事」の提供
 - (カ) 接遇向上のための知識と技術の習得
 - (キ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいのある職場風土の醸成
- (イ) 部署間連携と職員間コミュニケーションの強化
- (ウ) 人材活用と適正配置による業務効率の向上
- (エ) 人材採用力の強化と地域人材の活用
- (オ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 園内設備の計画的改修と実施
- (イ) 全部署が募集活動に参画し、入居率 95%（期末）以上確保
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 健康寿命延伸・自立支援促進のための新たな仕組みづくり
- (オ) 診療所機能検討と入院ベッドの適正利用

4. 環境・省エネへの取組み強化と地域との関わり

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 多様な人材（高齢者・障がい者等）の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

【数値指標】

2021 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	368 戸／379 戸	41 戸／45 戸	409 戸／424 戸
入居者数／定員	460 名／500 名	41 名／50 名	501 名／550 名
入居率	97.1%	91.1%	96.5%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	22 名	30 名	31 名	20 名	17 名	17 名	13 名	150 名

職員数(常勤換算)	138.2 名
サービス活動収益	1,032,400 千円

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を重点課題として取り組んだ。感染予防の体制を強化するため、職員教育や環境の整備等に努めると同時に、外部からの入館制限や様々な活動を制限することとなり、入居者の皆様に不便をおかけした1年となった。

2021年度は、引き続き感染症予防に注力し、入居者が安心して生活できる施設づくりを念頭に取り組みを行う。そして、感染症対策を講じた上で「新しい生活様式」を取り入れた楽しめるイベントの企画も行っていく。また、自然災害への備えの強化や防犯防災訓練を実施し、いざという時にも安心していただけるよう防犯防災体制の強化に努める。2020年度から取り組んでいる各課の相談窓口としての機能向上の取り組みについても、安心感が高められるよう継続していく。職員一人ひとりが入居者のご意見に耳を傾け、寄り添ったサービスの提供ができることを目指し、専門領域の学習支援や研修の実施などの職員教育を強化し、サービスの質の向上に努める。近年、看護介護職員の人材確保が大きな課題となっており、職員の採用・定着のためIT化・機械化の促進や業務改革を進め、離職防止の取り組みにも力を注いでいく。経営面では、安定した収益確保のため、レストラン利用率の向上にむけて、入居者のニーズに合わせた食事サービスの提供に努める。募集活動面では、需要の多い浦安市内を中心とした活動を行うとともに、適切な時期に介護居室への住み替えを進め、入居率95%以上の維持を目指していく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 安心した生活を支えるサービスの質向上への取り組み
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (ウ) 「新しい生活様式」を取り入れた入居者参画型イベントの実施
 - (エ) 入居者のニーズを満たす食事サービスの提供
 - (オ) 相談窓口の機能向上の取り組み
 - (カ) 全課で連携した看取り介護の体制の強化

2. 働きがいのある職場風土の醸成

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
- (イ) 各課の役割を理解し協力し合う職場作りと人材の育成
- (ウ) 専門領域の学習を支援し、職員の質の向上を図る
- (エ) IT化・機械化の促進と離職防止の取り組み
- (オ) 心の健康づくりのための取り組み

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア) 感染症予防強化と発生時の早期対応
- (イ) 災害対策の強化
- (ウ) リスク回避と発生時の迅速な対応
- (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現

- (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の維持
- (イ) 安定した収益の確保
- (ウ) 環境・省エネへの取り組み

5. 地域における公益的取り組み

- (ア) 地域開放型イベントの継続
- (イ) 地域防災活動の実践
- (ウ) 地域活動への参加

【数値指標】

2021 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	189 戸	25 戸	214 戸
入居者数	226 名	25 名	251 名
入居率	96.9%	86.2%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	15 名	9 名	17 名	6 名	9 名	8 名	5 名	

職員数（常勤換算）	67.3 名
サービス活動収益	439,580 千円

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2020年度は、新型コロナウイルスの流行により、感染防止対策による新規入居の一時停止等もあり、入居率の著しい低下が長期化し経営状態の悪化を招く結果となった。未だ「収束」しない新型コロナウイルス感染状況下ではあるが、新しい形態での入居者募集活動も視野に、早急な対策を実施し経営目標は期末入居率100%を目指す。

安心・安全・良質なサービス提供については、「新型コロナウイルス感染症対策」の継続実践のもと、バランス良い施設づくりを目標に「第三者評価」の他、2020年度中止となった「かながわベスト介護セレクト20」「かながわ認証」の取得を目指す。

サービス提供の基となる職員の「働き方改革」への継続した取り組み、職場環境の改善、人財定着の強化を維持する。又、職員のキャリアアップ支援についても、「コロナ禍」に伴い中止・延期となっている多くの研修・資格取得制度の再開と、リモート研修受講環境等の改善を行い安定したケアサービスを提供できる職員層の厚い組織を構築する。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域社会との連携と協働
5. 環境・省エネに対する意識強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
 - (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
 - (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催とPDCA：感染・苦情相談を含む）
 - (ウ) 認知症チームケアの定着と認知症専門研修受講者の増員による、認知症ケア体制の強化
 - (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
 - (オ) 「第三者評価」を受け、施設体制の見直し・強化を図る

2. 人財の育成

- (ア) コロナウイルスの流行長期化に伴う、職員ストレスの緩和・モチベーションの維持
- (イ) 人財確保
- (ウ) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上活動の継続
- (エ) 「働き方改革」の維持推進
- (オ) 職員のキャリアアップ支援と研修受講環境の整備（認知症専門研修・認知症ケアマッピング研修・キャリア段位・認定資格取得支援等）

3. 経営基盤の安定と永続性の確保

- (ア) 平均入居率 90%の維持（平均要介護度 2.5 以上）
- (イ) 入居者募集活動の強化（定期的な近隣医療機関、地域支援センターへの訪問活動の維持・紹介業者の活用、WEB 広告による募集活動の推進、募集イベントの地域開催等）
- (ウ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践
- (エ) 介護テクノロジーの活用による経営改善

4. 地域社会との連携と協働

- (ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）
- (イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、ふれあい食堂の開設）

5. 環境・省エネ活動への取り組みの強化

- (ア) 入居者と協働したエコ活動
- (イ) 省エネ・エコ活動の継続
- (ウ) 事業ゴミの削減による環境保全

【数値指標】

2021 年度期末

	2021 年 3 月末	2021 年 4 月 ～2022 年 3 月	計（退去 10 戸除く）
契約戸数	40 戸	20 戸	50 戸
入居率	80%	100%	100%

※退去戸数を 10 戸で計上

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	3 名	9 名	10 名	12 名	9 名	7 名	

職員数(常勤換算)	48.8 名
サービス活動収益	258,730 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2021年度、聖隷藤沢ウェルフェアタウンは10周年を迎える。これまで取り組んできた課題や目標に対しPDCAサイクルを継続していくことで各種サービスの更なる向上を目指していくことはもちろん、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の継続、また聖隷福祉事業団が掲げる中期事業計画、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを基に、聖隷藤沢ウェルフェアタウンの将来を見据えた事業継続のための検証、検討を推進していく。

また、2021年度は介護報酬改定により、経営的な状況にも変化が予想されるが、改定のポイント、および地域や利用者が求めるニーズを精査することで、安定経営の継続を目指すことに加え、内外の環境の変化に柔軟に対応できる経営を目指す。

藤沢エデンの園一番館では、介護サービスを利用する入居者が緩やかに増加しており、二番館においても平均介護度の緩やかな上昇、看取り期を迎える入居者の増加がみられ、タウン内の在宅・通所事業所とのより緊密な連携と、協力医療機関や地域の社会資源との連携が重要な課題である。そうした中でスタッフの確保と教育により、現状に即応できる体制を整えタイムリーで最適なサービスの提供を目指す。

有料老人ホーム事業以外においては、2021年度にはタウン至近に特別養護老人ホームが新設されることや、通所・在宅サービス事業所においてはこれまで同様に過密状況が続いていることから、地域の方にタウン内各事業所を選択いただくには一層の努力が求められる。2020年度同様、これまで研鑽を重ねてきたプロフェッショナルとしての基本的な介護技術に加え、「認知症ケア」「看取りケア」「End of Life Care」「ACP（人生会議）」等の知識と技術を礎に、利用者一人ひとりに最適なサービスを提供していくことで、地域No.1の評価を目指す。

その他、ICT（情報通信技術）事業にはこれまでも積極的に取り組んできたが、企業や行政と連携しICT技術による自立者の軽度認知症状の把握や、要介護者の見守りシステムの導入により、タウンや地域が今現在抱えている課題の解決と、将来を見据えた環境・体制づくりに取り組んでいく。

さらに、自然災害への対応・対策については、これまでもいくつかの整備を行ってきたが、地域との防災協定等、残された課題について取り組んでいく。

2021年度も、利用者が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じられるよう、運営をおこなっていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営

3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 環境の変化に対応できる体制づくり
3. 多様・多職種の人材確保と育成の強化
4. 法人中期事業計画に基づく新たなプランの検討
5. 地域共生社会における社会福祉法人として役割の具現化と実践

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

開設 10 周年を迎え、タウン内外の福祉施設、医療機関、企業との連携、また多職種連携により、これまで以上に「安心・安全」を目指した体制を整備する。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. サービスの質の向上
2. タウン全体で入居者を支える体制づくり
3. 接遇力の強化

(数値目標)

2021 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	207 戸／209 戸	—	207 戸／209 戸
入居者数	261 名	—	261 名
入居率	99.0%	—	99.0%

職員数(常勤換算)	50.7 名
サービス活動収益	389,480 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 安全で安心できるサービスの提供
2. 職員の育成強化
3. 職場環境の改善

(数値目標)

2021 年度期末

	2021 年 3 月末	2021 年 4 月 ～2022 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	40 戸／50 戸	44.8 戸／50 戸	48 戸／50 戸
入居率	80.0%	89.6%	96.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	1 名	2 名	4 名	11 名	20 名	6 名	5 名	

職員数(常勤換算)	39.3 名
サービス活動収益	199,070 千円

藤沢愛光園

2021年度は、開設10周年の節目となり、次の時代を見据えた変革に取り組んでいく。積極的な介護ロボットとICT技術の活用・導入を推進し、職員の業務負担軽減と共に入居者に安心して安楽な介護を提供できる環境を整備していく。また、職員の接遇力・コミュニケーション力を研鑽し、サービス満足度の向上に努める。その他、感染症や自然災害等に臨機応変に対応できる体制作りにも継続的に取り組んでいく。市内特別養護老人ホームの運営状況を把握し、安定経営のため、積極的に行政・関係事業者と連携し、入所・短期入所事業共に待機登録者と新規利用者の確保に努める。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 経営の安定化
3. コミュニケーション力と接遇力の向上
4. 感染症対策の強化

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,953人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.5人	18.3人
稼働率	98.5%	91.5%
単価(1人1日あたり)	14,905円	14,580円
サービス活動収益	536,660千円	97,390千円
職員数(常勤換算)	67.4人	13.8人
職員数(常勤換算)	81.2人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

認知症機能が低下している利用者にもアプローチできるよう認知症ケアを取り入れた支援に取り組み、利用者が主体的に機能維持・向上に取り組めるような機能訓練の仕組みづくりを行う。また、利用者が安心して利用できるよう人材の育成を継続的に行い、機能訓練型デイサービスとして地域から選ばれる事業所を目指す。

(数値目標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	26.0件	668.8件	8,025.5件	15.3件	184件	10,650円	35,400円	95,910千円
半日	2.2件	51.9件	623.2件	—	—	6,300円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

地域と聖隷藤沢ウェルフェアタウンの利用者の自立支援に資するケアマネジメントを実践するために人材の確保と育成に注力する。また、介護報酬においてより高い加算要件を取得・維持することで経営の安定を図る。

(数値目標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,197 件	502 件	15,800 円	4,580 円	189 件	5,000 円	22,150 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

認知症に対しての専門性を高め、認知症利用者へ質の高いサービス提供できるよう努める。また人材の確保、育成を図りながら、新規利用者の獲得に努め、安定的な運営を目指す。

(数値目標)

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
485 件	5,822 件	172 件	2,064 件	206 件	2,466 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害 (回)	
4,300 円	19,400 円	4,700 円	46,060 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者、家族ができる限り持てる力を発揮し、安心して自分らしく生活できるような質の高い看護を提供することを目的とする。そのために、これまで同様職員一人一人が不安なく看護を提供できるよう OJT および事業所内外の研修により研鑽に努める。また、地域や利用者からのニーズも高い理学療法士の配置にも対応し事業の充実を図っていく

(数値目標)

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
119.0 名	672.0 件	8,065 件	9,799 円	79,030 千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中、日本中に広がりを見せた。未知のウイルスでもあり色々な対応を迫られる中、ウイルスを持ち込まない対策を継続して実施してきた。高齢者や基礎疾患のある方が感染した場合、命に関わることも考えられ、引き続き、入居者、利用者、職員への感染症対策の徹底が必要だと考えている。その中で、有料老人ホームの一般居室は新規契約戸数の予算を達成し、引き続き高い入居率を確保することができた。介護予防活動等は感染予防を行いながら、できる所から実施している。ニッセイ聖隷クリニック、奈良ベテルホーム及び在宅部門については、新型コロナウイルスの影響で、収益面が厳しい年になった。

2021年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の対応が必要になってくると思われるため、新しい生活スタイルや働き方をよく考えながら実践していく必要がある。2020年度からの継続で職員へテーマとして話をしているのが、「新型コロナウイルスだけできること」「新型コロナウイルスだからできること」、新型コロナウイルスだから仕方が無い、何もできないのではなく、できる方法もあるのではないかという視点をもって、2つのスローガンを抱えながら、皆様にこの園の中でも安心・安全・楽しい施設作りを推進していきたいと考える。ニッセイ聖隷クリニックは有料老人ホームの附属診療所としての役割をしっかりと果たしていく。奈良ベテルホーム及び在宅部門は、河合町や近隣事業所との連携を更に強化し、引き続き地域支援への取り組みに努めていくことと、収益面では予算数値に近い実績をあげる必要がある。また、2021年4月には介護報酬改定があり、制度改定に伴う対応を迅速に行うことが必要である。安心・安全面の取り組みとして、災害、防災対策においても、防災訓練が職員のみの実施となるなど、感染対策の影響は否めないが、逆に、より実践的な内容に更新するなど、対応力向上のきっかけとしたい。WAC第一号施設として継続してきた事業が2022年度に開園30周年を迎えるにあたり、後世に残るしっかりとした基礎を作る年としたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
 - (オ) 開園30周年記念に向けた企画立案

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
- (イ) 各部門（有料・クリニック・ベテル・在宅）の施設会計の収支改善
- (ウ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
- (エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (オ) 省エネルギー資源活動への取り組みの継続

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 働き方改革への取り組みの継続
- (イ) 採用力強化と定着への取り組み
- (ウ) 社会的責任を満たすための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) 身体拘束、虐待防止への取り組みの継続
- (ウ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (エ) 接遇マナーの向上と職員間で指摘しあえる風土づくり
- (オ) 業務基幹システム（ETS2020）の有効活用
- (カ) 満足度調査実施と結果の分析、課題解決への取り組み

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2020年12月1日現在において、入居契約件数402戸（一般居室354戸、介護居室48戸）入居率は97.6%（一般居室97.8%、介護居室96.0%）、入居者の平均年齢は全体で82.5歳である。

2020年度は新型コロナ感染症拡大により、様々なイベント・活動の縮小を余儀なくされた。

2021年度は感染予防対策を充分にとったうえで「コロナだけど・だからこそできる事」を念頭においた運営を実践し、入居者が安心して健幸な生活を送るための介護予防等の充実へつなげる。

ケア部門では ETS2020 をケアの質の向上、リスク軽減へ活用し、より安全・安心なサービスの提供につなげる。また、“その人らしさ”を支えるため、マイメモリーシートの多職場間活用体制の構築や、いきいき生活室を中心とした入居者の生きがい作り支援への取り組みなど、複合施設としての強みをさらに強化する。

また、働き方改革や労働人口の減少などの社会情勢をふまえ、ICT（情報通信技術）化、障がい者・外国人雇用など“多様な働き方”に対応した労働環境の整備など具体的な対応を継続的に推進する。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) マイメモリーシートの活用方法を見直し、その人らしさを終末期まで支えるケアの推進
 - (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透
 - (ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
 - (エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上
 - (オ) 開園 30 周年記念に向けた企画立案
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え
 - (イ) 入居募集活動への協力と連携
 - (ウ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備。省エネルギー資源活動への取り組み
3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 多様な働き方に対応した採用力強化への取り組み。障がい者雇用に向けた職場間の連携
 - (ウ) 目標参画等の各種ツールを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (エ) 専門研修等の参加・資格取得の支援と職場還元による職場の活性化
 - (オ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
 - (エ) ETS2020 の有効活用
 - (オ) 接遇向上を目指し職員間で指摘しあえる風土づくり
 - (カ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上
5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力体制の強化
 - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

【数値指標】

2021 年度期末

	一般居室			介護居室				計
契約戸数	354 戸			50 戸				404 戸
入居者数	464 名			52 名				516 名
入居率	97.8%			100.0%				97.8%
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	21.8 名	25.0 名	31.5 名	21.5 名	18.8 名	16.3	5.6 名	140.5 名
職員数(常勤換算)	102.49 名				※有料老人ホーム部分			

◆ 高齢者総合福祉センター

2020年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、計画していた講座・イベントの開催中止を余儀なくされた。事業計画どおり実施できたのは、写真講座1回のみとなった。個人での活動を継続できるよう文化教養講座「色鉛筆ぬり絵講座」の教材販売を行い、好評を得た。

2021年度は、感染予防を最優先に考え安全対策を十分に行った上で、講座・イベントの再開を目指す。また、新規講師の招聘に向けて調査・研究を引き続き行い、新規企画の立案を行う。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2020年度は地域の入院患者受入れを継続し、初めて看取りを行うことができた。もの忘れ外来受診者の情報共有を地域包括支援センターと密に行い、介護保険申請へスムーズな対応ができた。

2021年度、外来は有料老人ホーム一般居室の通院困難者に対して新しい診療体制の構築を目指す。入院は積極的なレスパイト入院を行い、高いベッド稼働率を維持していく。健診は各種キャンペーンを立案し、3密を回避しながら安心して受診していただける環境を作っていく。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、近隣病院の入院患者の退院支援制限、居宅事業所からの相談減少などがあり入所稼働率が著しく低下した。11月より徐々に相談件数は増えているが安定していない。通所リハビリテーションに関しては、10月から予算数値に至ったが、12月頃より感染症拡大による利用控えで予算数値が減少傾向となった。入所、通所とも新型コロナウイルス感染症の感染に注意しながらの運営を行っている。

2021年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症に注意しながら利用者、職員の感染対策を徹底し、感染拡大防止の取り組みを行っていく。その中で、収益を確保するためには「在宅強化型老健」としての運営を継続することが必須である。入所、通所の稼働率を増やす取り組みとして、引き続き定期的な空床情報の提供、電話や訪問での渉外活動を行い、経営安定に取り組む。

◆ ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2020年度は、家事介護サービスと介護用品売上収益は予算達成できたが、介護保険収益は入院・施設入所が多く、新規ケースもケア回数や時間共に減少したため、予算未達であった。

2021年度は、喀痰吸引の資格取得者を増やし、ケアの増収を図る。また、継続してヘルパーの人材確保と離職防止を図る。居宅支援事業所等への渉外活動を工夫し連携強化に努め、新規利用者増を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2020年度上半期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で新規利用者が減少、特に訪問リハビリの減少が目立った。その中で、ICT導入により作業の効率化が図られ業務改善につながった。

2021年度は、情勢によりオンラインなども活用しながら地域近隣事業所、医療機関等との連携を強化し、効率的な渉外活動を行いながら、事業の安定運営を目指す。

◆ ニッセイせいいケアプランセンター西大和

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で会議や研修など縮小傾向の中、制限下での地域ケア会議、ケアマネネットワーク会議や研修等の参加、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用継続などにより、医療・介護・地域との連携強化していく中で予算達成できた。

2021年度は、with コロナ禍での連携強化を図り、ICT化を推進するとともに、ケアマネジメントの質の向上、選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大という状況下で、園の運営も大幅な軌道修正を強いられた。付設診療所でも職員の感染者が発生したが、一方で感染症対策や危機管理については、平時では経験できない事象も多数存在し、我々の貴重な学びの機会となっている。2021年度も当面は大きな状況変化がないと考えられるため、この学びを活かしつつ、入居者にはこのような時だからこそ“ここを選んで良かった”とあっていただけるような施設運営を心掛けていく。

2021年度については、まずは新型コロナウイルス対策を念頭に置き、単発の感染者が発生したとしてもそこから感染を拡げないことを中心に、入居者の命を最優先に考えた施策を実行していく。一方で既存の入居者からは、感染症対策による園内生活の制限に対し一部緩和を求める声も聞こえ始めている。禁止や自粛を一方向的に押し付けるのではなく、感染リスクなく実施できる方法を入居者と一緒になって考え、不便ながらも楽しい生活を送っていただくために、「新しい生活様式」を取り入れた安全な余暇活動や行事の推進を図っていく。

経営面においては、ここ数年の状況を鑑みると逝去者の増加が今後も予測される。コロナ禍の影響で今までのような募集活動が制限される場面もあるが、今まで以上に職員一人ひとりが募集に対する意識を強く持ち、入居率実質100%を維持しつつ事業の安定化に努めたい。職員の働き方に関しても、周辺環境を整えばオンラインでの会議実施や、質を落とすことなく業務の効率化を実行できる部分もあることが判ったため、各個人の仕事に対する意識変化と行動変容をさらに求めていきたい。具体的には超過勤務の2020年度比5%削減、有給休暇の取得推進、さらには人員配置の見直しといったところまで加速させ、実行したい。

2021年度は延期となっていた介護居室6戸増築を柱とする新館の建築工事もいよいよ始まる予定である。これを長年の課題であった介護居室不足解消、及び入居者数増加に伴う施設会計の安定につなげ、さらなる施設発展への好機となるようしっかりと準備を進めていきたい。

以上のことを視野に入れながら、次の重点目標を掲げ、2021年度の施設運営に臨んでいく

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とあっていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期までその人らしいライフスタイルを尊重したシームレスなサー

ビス体制の提供

- (イ) 基幹システム（ETS2020）を活用した部門間情報共有の充実
- (ウ) 新しい生活様式を意識した、入居者参画型の企画・行事の推進
- (エ) 関わりの少ないご入居者へのアプローチ（セカンド含む）
- (オ) 新しい技術や介護ロボット等の導入検討

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 不適切なケア、接遇の知識・技術の向上と定着
- (ウ) 他課との連携を意識した業務整理と介護業務一元化の推進
- (エ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成
- (オ) eラーニングを活用した教育体制のさらなる質の向上

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集への参画（園に関する知識の向上）
- (イ) 職員の定着と適正な人員配置の実践
- (ウ) 選ばれる食堂に向けた新たなサービスの創造（喫食率3食平均2%の向上、毎月1回以上の新メニューの導入）
- (エ) 雇用制度多様化への対応と有効活用
- (オ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年5%

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の実践と徹底
- (イ) 入居者・職員の命を守るための防災体制への取り組み
- (ウ) セキュリティ及び防犯の強化
- (エ) 新しい I/A システムの運用による事故の再発防止（対策立案能力の向上）
- (オ) コンプライアンス遵守の徹底

5. 社会・地域への貢献と連携

- (ア) コロナ禍における WAC 施設としての存在意義の発揮
- (イ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組）
- (ウ) SDG s（持続可能な開発目標）を意識した社会的責任への取り組みの実践

【数値指標】

2021年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	303戸/315戸	36戸/37戸	339戸/352戸
入居者数	381名/419名	36名/37名	417名/456名
入居率	96.2%	97.3%	96.3%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	28名	20名	26名	25名	12名	13名	6名	130名

職員数(常勤換算)	118.54名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大によりこれまで以上に感染対策を考える1年となった。クリニック職員から新型コロナウイルス感染者も発生したが、幸いにも他の職員、患者への感染はなく感染拡大には至らなかった。引き続き感染予防・感染拡大防止に取り組んでいく。

2021年度は、新型コロナウイルスをはじめとする感染予防・拡大防止の中心的役割を担いつつ、診療機能を落とさず患者が望む医療を提供していく必要がある。そのためには、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。施設外での研修参加が難しいため看護・介護職のeラーニングの活用やICT（情報通信技術）を利用したスキルアップの機会を設け職員の能力を引き上げていく事が重要となる。また、外部医療機関との連携は感染対策に配慮しながらも継続し充実させなければならない。

経営面においては、2021年度の診療報酬改定に適切に対応し、取得できる施設基準は速やかに申請していく。また、2020年度に検討していた外部患者への予防接種枠を設置し収益増を図っていく事については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて継続して検討していく。

患者、入居者に安心してクリニックをご利用いただくためにも、安全・感染管理とコンプライアンスに配慮したクリニックの運営をおこなっていくことが求められる。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携強化とチーム医療の推進
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の質向上
- (エ) コロナ禍における地域貢献の実践

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としてのスキルアップと情報発信
- (イ) ICTを活用した研修参加と環境整備
- (ウ) 離職防止に向けたフォロー体制の構築
- (エ) 看護・リハビリ部門のキャリアラダーを活用した人材育成の推進

3. 経営基盤の安定

- (ア) 病床稼働率90%の維持
- (イ) 外部患者の予防接種枠の設立
- (ウ) 診療報酬改定への対応
- (エ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年5%

4. リスク管理体制の強化

- (ア) IA事例の共有と再発防止策の遵守と警鐘事例の周知
- (イ) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止の徹底において中心的役割を担う
- (ウ) 働き方改革に対応した労務管理
- (エ) 高齢者に対する権利擁護の意識向上

2021 年度数値指標 【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	5,000円	243日
入院部門	17.0名	12,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	760名	840名
職員検診	187名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

ニッセイ松戸アカデミーでは、入居者と近隣にお住まいの方が、趣味活動などを通じて、生きがいと仲間づくりをしていただくことを目的としている。2020年度は新型コロナウイルスの影響で入居者及び近隣にお住まいの方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートが制限されてしまった。2021年度は『新しい生活様式』に則った形で「エデンの園のノウハウを地域にお住まいの方にも還元できる活動」についても実施していきたい。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取り組み
2. 入居者募集につながる魅力ある企画の立案
3. 新しい生活様式を意識したイベント・教室の開催

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2020年度は、年度当初から新型コロナウイルスが感染拡大したが、感染のリスクのある中、ヘルパーたちの「利用者のために行かなければ」という使命感に支えられ、利用者の希望である「住み慣れた我が家で暮らしたい」を何とか支援することができた。2021年度はこの経験を生かし、未曾有の事態に在宅生活を支えるためのシステム作り、関係機関との連携の強化、ヘルパーが安心して介護に臨める事業所のバックアップ体制の強化を最優先課題とする。

さらに介護報酬改定、訪問介護システム入替への対応、事業所の体制整備、介護職員の業務分担見直しとそれに伴う教育を実施していく。

1. 介護報酬改定・訪問介護システム変更への対応入居者へのサービスを継続
2. 地域のニーズに応えるため、訪問介護員のさらなるスキルアップ
3. 入居者へのサービスを継続
4. コロナ禍においても利用者と職員がともに安心できる訪問介護事業の実践
5. 在宅利用者におけるクリニック利用の推進

2021年度数値指標 【介護保険】

営業日数=311日（月平均25.9日）

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	24.1名	4,900円
予防給付（月利用者数）	15.0名	18,500円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	14.0名	7,000円

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2020年度版の厚生労働白書によると日本人の平均年齢は男性81.4歳、女性87.4歳となった。また、“団塊の世代”がすべて75歳以上になる2025年を経て、高齢者数がピークとなる2040年(推定)に向かって高齢化が今後も進んでいくと記されている。若年(就労)人口が減少するなかで到来する“人生100年時代”に対応するために、これまでよりもさらに健康寿命の延伸を図っていくことが求められていくことになる。

当施設については、入居者平均年齢が86.6歳(2020年11月末)と2019年の同時期から0.5歳上がり、高齢化に伴って日常生活を送る上で何らかの支援を必要とする入居者は増えている。しかし、要介護認定率を比較すると年齢層が上がるほど全国平均よりも低く、“元気で長生き”を実現できている入居者が多いことも確認できている。

2021年度はこれまでと同様に入居者の健康寿命を延ばすための取り組みを継続していくと同時に何らかの支援を必要とする入居者も安心して暮らせるよう、バランスの取れた施設運営の継続に努めていく。

また、新型コロナウイルス対策を継続しながらも安定した事業経営を継続していくためにコロナ禍により低下した入居率を再び向上させるとともにサービスの質を担保しつつ、あらゆる面において業務効率の向上にも取り組んでいきたい。

【 施設理念 】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【 経営方針 】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【 事業・運営計画 】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組みの継続
 - (ウ) 要介護未認定入居者や職員との接点の少ない入居者に対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 介護が必要になった時に向けての入居者の意志を聞き取る体制づくり
 - (カ) ケア充実のための新しい福祉用具・IT機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 次世代の育成
- (イ) 自信につながる専門領域の習得
- (ウ) 他業種の研修等を取り入れての接遇の向上に取り組み
- (エ) 他課の業務を体験して理解を深める
- (オ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 健康増進センターを活用した地域との交流への取り組み
- (ウ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
- (エ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動・防災対策への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取り組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

- (ア) コロナ渦に対応できる新たな募集活動
- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

6. オリンピック開催地として、ご入居者と共に記念に残るイベントの実施

【数値指標】

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	275/317 戸		37 戸/53 戸		312 戸/370 戸			
入居者数/定員	307 名/482 名		37 名/53 名		344 名/535 名			
入居率	86.8%		69.8%		84.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19.3 名	17.4 名	27.6 名	10.4 名	10.9 名	13.2 名	7.9 名	
職員数（常勤換算）	108.02 名							
サービス活動収益 ※	111,700 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ